

「郷学校」とは、藩校を少し簡便化した形のもので、藩主が設立した学校のことを言います。郷学、郷校、支校、分校などいくつかの呼び名があります。

自領のうち城下町より遠隔の地に勤務、在住する藩士の子弟を教育するための教育機関で、近村では堀田領柏倉と秋元領高橋に設けられた2つの郷学校が有名です。高橋郷学校は、長崎界限と距離も近く、当町の若者の中にここで学んだ者もいたでしょうし、少し詳しく説明します。

明和4年（1767年）以降山形藩主として村山地方6万石を領した秋元氏は、弘化2年（1845年）上州館林に移りましたが、旧山形藩のうち大半を占める4万6千余石は秋元氏の分領として残されました。そこで高橋と漆山に陣屋を設け、高橋では貢祖の徴収を、漆山では公事裁判の業務を分担しました。しかし、両陣屋の間は1里ほどの距離であることから、領内で

統合を望む声が高まり、高橋陣屋を廃止し、漆山に統合することになりました。

しかし、高橋陣屋跡に約80戸の藩士宅があり、140、150人ほどの子弟がいたことから、ここに郷学校を建設しました。そのようにしてできたのが高橋郷学校です。この郷学校では、近在の学問を志す子どもも含め、武士の子の枠をはずした文武の教育を行いました。子弟を指導したのは教頭の白石金輔および多くの助教や剣道・槍術の師範でした。白石金輔の子である金平は、明治維新後、漆山に移って私塾を開いています。

【用語説明】

陣屋…江戸時代の幕藩体制における藩の藩庁が置かれた屋敷。

1里…約4キロメートル。歩いて1時間ほどの距離。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

私たち地域おこし協力隊です！ No.34

着任から早くも1年経ち、山形1年生ではなくなった協力隊の稲垣です。先輩協力隊のお2人が卒業して、これからは基本的に稲垣と伊藤でコラムをお届けしていきます。いろいろ状況を見ながらだった1年目を挽回するためにも、今後の将来につなげるためにも、充実した2年目にしていきたいです。

先日、惣右衛門家で見学者の方から、「屋根も立派だね」という感想をいただきました。ありがとうございました。惣右衛門家の屋根は「せがい出梁造り」とされ、群馬県の草津温泉などでも見られる造りです。現代の家はどの地域も似てきていますが、民家の屋根には立地環境やお家の仕事などの影響で様々な形があります。同時に、大勢の人の目につく部分でもあります。九左衛門家のような茅葺き屋根でも、かつては「見栄えが悪い」といって20年ほどで葺き替える地域もあったそうです。

そういえば、私が初めて担当したコラムでも民家の棟についてお話ししましたね。1年経ってもネタのバリエーションが増えていませんが、これからも皆さんと古民家のことや中山町のことをお話ししていきたいなと思います。よろしくお願いします。

